

厚生労働科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業))
分担総合研究報告書

利用者の病児・病後児保育の登録・利用状況及びその要因に関する調査

研究分担者 上別府圭子 東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野 教授

研究要旨 保育所利用者の病児・病後児保育の登録・利用状況及びその要因を明らかにすることを目的に、体調不良児対応型保育所および看護職配置一般保育所の利用者 605 名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。359 名から回答が得られた。病児病後児保育施設があることを知っている利用者は 9 割以上であったが、利用登録をしている者は体調不良児対応型で 23%、看護職配置一般園で 49%であった。実際に利用をしたことがある利用者はそれぞれ 13%、34%であった。利用登録をしていない理由としては、体調不良時には家庭で子どもを看たいという考えや、手続きの方法がわからないという回答が多かった。実際の利用をしていない理由としては、仕事を休むことができたり親戚などに預けることができたりしたという回答が多かったが、子どもを慣れないスタッフに預けることの不安や利用条件の困難さも挙げられた。利用者が資源として病児・病後児保育を活用できるよう、情報提供を行うとともに、利用しやすい体制を整えていく必要性が示唆された。

研究協力者：

佐藤 伊織 東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻家族看護学分野
池田 真理 東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻看護管理学/
看護体系・機能学分野
瀬戸山有美 東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻家族看護学分野
松原 由季 同上

A. 研究目的

本調査の目的は、保育所利用者の病児・病後児保育の登録・利用状況及びその要因を明らかにすることとした。

B. 研究方法

体調不良児対応型保育所 9 施設(以下、体調不良児対応型)の利用者 305 名および看護職配置一般保育所 10 施設(以下、看護

職配置一般園)の利用者 300 名、計 605 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。調査対象保育所は、体調不良児対応型園と看護職配置一般園との間で所在地域に差がないよう選定した。0 歳児、1 歳児、2 歳児クラスに所属する子どもの保護者に、保育所を通じて質問紙を配布した。

子どもの属性として、年齢、性別、定期的な通院の有無、保育所に通所している期間、同居家族の続柄を尋ねた。保護者の属性として、年齢、子どもとの続柄、勤務先から保育所への所要時間を尋ねた。通所している保育所に看護職が勤務していることを知っているかについても尋ねた。病児・病後児保育について、病児・病後児保育施設があることを知っているか、利用登録の有無とその理由、実際の利用の有無とその

理由を尋ねた。倫理的配慮として、研究参加状況や回答内容が保育所に知られないことを書面にて説明した。東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

体調不良児対応型、看護職配置一般園の利用者それぞれ 173 名、186 名計 359 名(回収率 59.3%)から質問紙の返送を得た。

1. 属性について

子どもの平均月齢は体調不良児対応型、看護職配置一般園で 31.3 ヶ月、31.7 ヶ月であった。保育所に通所している平均期間はそれぞれ 19.8 ヶ月、19.9 ヶ月であった。

2. 保護者の認識や利用登録状況

通所している保育所に看護職が勤務していることを知っている保護者は体調不良児対応型で 164 名(95%)、看護職配置一般園で 168 名(90%)であった。

病児・病後児保育施設があることを知っているかについては表 1 に、病児・病後児保育施設の利用登録状況については表 2 に示した。利用登録をしている保護者は体調不良児対応型で 39 名(23%)、看護職配置一般園で 92 名(49%)であった。

表1 病児・病後児保育施設があることを知っているか

	はい	いいえ	無回答
体調不良児対応型	151 (87%)	19 (11%)	3 (2%)
看護職配置一般園	181 (97%)	5 (3%)	0 (0%)

表2 病児・病後児保育施設の利用登録状況

	登録	未登録	無回答
体調不良児対応型	39 (23%)	127 (73%)	7 (4%)
看護職配置一般園	92 (49%)	94 (51%)	0 (0%)

3. 利用登録している理由

病児・病後児保育の利用登録をしている理由を表 3 に示した。仕事を休むことができないまたは休みをとりにくいことが最も多かった。

その他の回答内容を以下に記載する。(体調不良児対応型 看護職配置一般園)
もともと関わりやすい施設であった

今の保育園に行く前に通っていた保育園だったため

かかりつけの小児科が病後児保育を運営している

職場に病児保育があり利便性が高い

職場でもある医療機関に併設されており、登録するよう言われたため

表3 病児・病後児保育の利用登録をしている理由

	体調不良児対応型 (n =39)	看護職配置一般園 (n =92)
仕事を休むことができないまたは休みをとりにくい	29 (74%)	71 (77%)
お子さんを預けられる知り合いや親戚がいない	21 (54%)	44 (48%)
お子さんが体調不良となることが多い	10 (26%)	14 (15%)
医療者がいるから安心だ	15 (38%)	38 (41%)
保育園のスタッフに勧められた	6 (15%)	10 (11%)
友人に勧められた	2 (5%)	1 (1%)
かかりつけ医に勧められた	2 (5%)	3 (3%)
上のお子さんのときに利用してよかった	2 (5%)	6 (7%)
病児・病後児保育施設へのアクセスが便利だ	7 (18%)	9 (10%)
その他	10 (26%)	11 (12%)

病院内にあるから
利用している保育園に病後児保育の制度がある。

念のため登録している

祖母に子守りを頼めない時にもう1か所頼める受け皿が欲しかったから

仕事で休める日と休めない日がある。又、家に祖母がいるが体調が良い時と悪い時があり、万が一の事も考え一応登録だけしている

主人となるべく休める時は会社を休むが、無理な時の保険みたいな感じ

普段は仕事を休めるが、いろんなトラブルが重なって子供をみる事が出来なくなったりするのをさけるため、念のため

安心できる

登録制ではないが...保育園では熱が少しでもあると帰らせられるので、仕事途中で呼び出されると具合が悪いので、お金がかかるが、37.8とかでも38でも元気でも預けたりしている。様子を見てもらうことが保育園では難しいようなのでたまに利用している

子どもをよく知っている職員がいるし、子どもも慣れている場所だから

最初はあずけることに不安を感じ敬遠し

ていたが、周りのママ友が利用していて良いとの事だったので

通常保育で登園したが、何日も前から熱が上ったり下ったりくり返していたので子どものペースで保育して頂けると聞いて

4. 利用登録していない理由

病児・病後児保育の利用登録をしていない理由を表4に示した。体調不良時には家庭で子どもを看たいという考えが最も多いが、手続きの方法がわからないという回答も、2割から3割みられた。その他の回答内容を以下に記載する。

情報が無い

自宅近くにあるのかどうか分からない
近くに病児・病後保育施設がなかったが、これから始めるお知らせをもらったばかりで詳しい内容がまだわからない。病児・病後児保育施設に預ける回復期にある状態があいまいな説明でわからない。どういうときに預けられるのかよくわからないお知らせの説明書きだった

利用できる病状や時間がよくわからない
施設がどこに存在するのか不明、情報が全く入ってこない

勤務とあわない・診察すると時間がかかる

近くの病後児保育は時間が中途半端なの

表4 病児・病後児保育の利用登録をしていない理由

	体調不良児対応型 (n =127)	看護職配置一般園 (n =94)
体調不良時には家庭でお子さんを看たい	49 (39%)	49 (52%)
仕事を休むことができる	35 (28%)	48 (51%)
お子さんを預けられる知り合いや親戚がいる	41 (32%)	39 (42%)
お子さんは体調不良となることが少ない	21 (17%)	6 (6%)
病児・病後児保育施設があることを知らなかった	17 (13%)	2 (2%)
利用登録の手続きの方法が分からない	45 (35%)	21 (22%)
利用登録の手続きをする時間がない	20 (16%)	7 (7%)
利用にお金がかかる	30 (24%)	28 (30%)
病児・病後児保育施設への交通手段が不便だ	27 (21%)	28 (30%)
その他	27 (21%)	16 (17%)

で、けっきょく半休なり取らなくてはならず、仕事のできる時間も中途半端になる

預ける当日に診察してもらいその後預けるといふことになるとその診察が手間。又、その時間を費やすならば有給をとった方が早いため

その日の診察後だと、遅く感じる。朝が忙しい仕事なので

病院で証明書をもらわないと利用できないが、朝から病院に行く = 会社を休む（半休がないため）なので、結局は会社を休む事になるので、自分で看ることができる。しかし、有休がどんどん減ってしまうので困る...自分の子がしんどい時ぐらい一緒にいてあげたい気持ちと...

保育時間が短い。8:30～だと仕事に間に合わないので、結局休むか遅刻+早退となる
悪くなりそう

何となく看護内容がわからないので不安。そこをお願いしたことで、他の病気にならないか衛生面が不安

よけいに悪くなりそうな気がする。本当にきちんとみてくれるのか不安

病気で弱っている時に、他の病気がうつってしまうのではないかと心配なため

ちゃんと見ててもらえるか不安。泣かせっぱなし等々

慣れない場所への不安がある

子どもがとても人見知りなので、慣れない場所に預けることへ不安がある。体調が悪いのに、さらに精神的に不安になるのでは？と思い利用していない

子どもが人見知りなので、普段接していない大人に看ってもらうのが不安です。子どもにとっても信頼関係の築けていない人に突然預けられるのは不安だと思う

いつもの保育所とは違う保育所（子どもが慣れていない場所）で看ってもらうことに不安がある

慣れない環境・人に預けるのは子どもにとって精神的負担が大きい

利用できなさそう

その保育園の園児でないと利用できないと聞いたため

受け入れ人数が少ないので、せっかく連れて行っても利用できないことがありそうであてにできない

どこの施設も、いつも定員いっぱい聞く。その場合断られるというから。施設の数が少ない

施設が少なすぎてすぐにいっぱいになる
見てくれる人数に限りがあるため、結局は断られるケースが多い、と聞いている為、あてにしていない

5. 実際の利用状況

実際に病児・病後児保育を利用したことがある保護者は、体調不良児対応型で23名(13%)、看護職配置一般園で64名(34%)であった。利用回数は平均してそれぞれ4.2回、3.6回であった。

6. 利用した理由

実際に病児・病後児保育を利用した理由を表5に示す。その他の回答内容を以下に記載する。

安心できる

何かあった時にすぐ Dr につないでもらえるので安心

預けている間に診察も受けられる為安心
丁寧な対応で看護師のスキルが高い

保育者が常時ついてくれているので安心。
朝早くても対応してくれて助かった
通常保育で登園したが、何日も前から熱

が上がったり下がったりくり返していたので子どものペースで保育して頂けると聞いて

仕事が休めなかった

すぐに迎えに行けなかった
 仕事が長期に休めなかったため

7. 利用しなかった理由

利用登録はしているが、病児・病後児保育を利用しなかった理由を表6に示す。

その他の回答内容を以下に記載する。

利用条件が困難である

前日の18時までに予約を入れてなければ利用できないため。子どもは急な病気が多いので上の条件では利用しにくい。利用施設の数も診てくれる子どもの人数も少ない。

アレルギーを持っているとお弁当を持参しなければならないこと

前日の夕方6:00までかかりつけ医の診断を受け、利用申込をするのは実際不可能。当日の朝の体調で保育園を休むか否かを判断するのが普通。それに子どもの体調が悪い時にお弁当を持たせた上で病児保育へ行くというのは親にとって負担だから。

事前に医師に書類をもらいに行くのが困難

その他

子どもの月齢がまだ低いので抵抗力が弱く、他の子どもさんの病気をもらわないか心配だから

医者 の指示で吸入をお昼にしなければならなかったので、スタッフに問い合わせし

表5 病児・病後児保育を利用した理由

	体調不良児対応型 (n=23)	看護職配置一般園 (n=64)
他に預けるところがなかった	20 (87%)	52 (81%)
料金が適当または安い	10 (43%)	6 (9%)
医療者がいるから安心だ	15 (65%)	31 (48%)
上のお子さんの時に利用してよかったから	4 (17%)	8 (13%)
病児・病後児保育施設まで交通手段が便利だ	10 (43%)	11 (17%)
お子さんがその施設やスタッフになれている	9 (39%)	26 (41%)
施設のスタッフがお子さんになれている	6 (26%)	18 (28%)
その他	2 (9%)	11 (17%)

表6 利用登録はしているが病児・病後児保育を利用しなかった理由

	体調不良児対応型 (n=36)	看護職配置一般園 (n=32)
お子さんが体調不良にならなかった	6 (17%)	9 (28%)
仕事を休むことができた	26 (72%)	23 (72%)
知り合いや親戚にお子さんを預けることが出来た	12 (33%)	12 (38%)
ベビーシッターやファミリーサポートを利用した	3 (8%)	0 (0%)
保育園が配慮してお子さんを看てくれた	0 (0%)	2 (6%)
利用にお金がかかる	3 (8%)	4 (19%)
病児・病後児保育施設へのアクセスが不便だ	6 (17%)	2 (13%)
お子さんがなれていない施設やスタッフに預けることはかわいそうだ	7 (19%)	6 (3%)
お子さんになれていないスタッフに預けることは不安だ	5 (14%)	4 (13%)
お子さんの症状が重かった	0 (0%)	1 (3%)
空きがなくて利用を断られた	0 (0%)	2 (6%)
その他	7 (19%)	3 (9%)

たところ、相談すると言われ、そのまま回答がなかったため

D. 考察

看護職配置保育所の利用者において、体調不良児対応型で87%、看護職配置一般園で97%と多くの利用者は病児・病後児保育があることを知っていた。利用登録を行っている利用者は、体調不良児対応型では約2割であるのに比べ、看護職配置一般園では約半数であった。登録している理由としては、仕事が休みにくいことが最も多く、預けられる知り合いや親戚がいないことが次に多かった。また、医療者がいるから安心であるという回答も4割みられた。登録していない理由としては、体調不良時には家庭で子どもを看たいという思いが最も多く、仕事を休むことができるなどの必要性を感じていないという回答もあったが、手続きの方法がわからないことや利用にお金がかかること、病児・病後児保育施設への交通手段が不便であるという回答も2割から3割みられた。実際に利用したことのある者についても体調不良児対応型で13%であるのに比べ、看護職配置一般園で34%とより多かった。利用した理由としては、他に預けるところがなかったことが最も多かった。医療者がいるから安心であることも多く、子どもがその施設やスタッフに慣れているという回答も4割程度みられた。登録はしているが実際の利用はしていない理由は、仕事を休むことができたなどの利用する必要がなかったという理由以外では、アクセスが不便であることや子どもが慣れていないスタッフに預けることの不安があり、またその他の自由記載では利用条件が困難であるという意見があった。

まず、病児・病後児保育施設があるということについて、体調不良児対応型の利用者の方が知っている割合がやや低く、利用登録している割合も低かったことは、通常保育中に体調不良となった場合にはその受け皿があるため、一般園と比較すると、子どもが体調不良となったときにどこに預けるかという不安が少なく安心できていることが推察される。

利用登録をしている理由として、子どもを預けられる人がいないということが多かったことは、核家族が多いことが背景にあると考えられる。体調不良時には家庭でお子さんを看たいという思いが最も多かったことは、先行研究において、保護者が自分で看病しやすいような看護休暇を求めるとい希望が多かったという結果とも一致している【1】。しかし、利用登録をしている理由として、仕事を休みにくいと回答した者が最も多かった。勤務のために体調不良の子どもに無理をさせていると8割の親が感じており【1】、病児・病後児保育へのニーズは高いと考えられ、安心して親が働き、子どもが病気のときに安楽に過ごすことができるためには、利用者が必要なときに利用できることが重要である。

しかし、利用登録していない理由として、手続きの方法がわからないこととした者が3割から4割であり、場所や利用条件などの情報が無いことを挙げていた利用者がいた。一方、利用するメリットを友人などから聞いたことで、利用登録をしたという利用者もいた。また、他の子どもの病気をもらってきたり、きちんと看てもらえるかわからないなど、利用することで病状が悪化するのではないかという懸念も挙げられて

いた。病児・病後児保育においては、3人の子どもに対し保育士1人、10人に対し看護師等1人などの人員確保がなされ、感染防止に努めることとなっている【2】。そうした環境面も含め、施設の場所や利用条件・利用方法についての情報を広く保育所利用者に普及する必要があるといえる。

利用登録していない理由にお金がかかることを3割の利用者が回答しており、病気の子どもを預ける際に重視することとして、安価であることが挙げられていたことと矛盾しない結果であった【3】。また、登録および利用しない理由として、利用条件が困難として、診察後の利用であることや、利用できる時間が勤務と合わないこと、事前の予約が必要であることが挙げられていた。どの程度の金額であれば、利用者が利用しやすいと感じるのか、どのような条件であれば利用しやすいと感じているのかについて調査する必要がある。さらに、本調査では交通アクセスも登録や利用の理由として挙げられていた。先行研究においても、自宅からの距離を重視するという親は3割であった【3】。病児・病後児保育施設へのアクセスが、利用登録や実際の利用の障壁になることのないよう、送迎制度や立地への配慮が必要であるといえる。

先行研究において、子どもにとって馴染みのある場所であるかも病気の子どもを預ける際に重視されていた【3】。本調査においても、利用登録している理由として、もともと関わりやすい施設であったことを挙げている利用者がいたこと、利用登録および利用しない理由として子どもが慣れない場所や人への不安が挙げられていた。普段から関わっている保育所が病後児保育機能

を有することが求められる。また、実際登録している理由として、子どもをよく知っている職員がいることや子どもがその場所に慣れていることを挙げている利用者がいたこと、実際の利用回数の平均が4回程度と、複数回利用している利用者も多いことから、1回病児・病後児保育を利用することで、2回目から利用しやすくなることが考えられる。そのためにも、初回の利用に繋がるための情報提供が重要であると推察される。

E. 結論

病児・病後児保育を登録していない理由としては、体調不良時には家庭で子どもを看たいという思いが最も多かったが、手続きの方法がわからないことや経済的理由、交通アクセス上の理由もみられた。実際に利用した理由としては、医療者がいることや、子どもがその施設やスタッフに慣れているから安心だという回答が最も多かった。登録はしているが実際の利用はしていない理由としては、アクセスが不便であることや子どもが慣れていないスタッフに預けることの不安が挙げられた。

安心して親が働き、子どもが病気のときに安楽に過ごすことができるためには、利用者が必要なときに利用できることが重要であり、環境面も含め、施設の場所や利用条件・利用方法についての情報を広く保育所利用者に普及し、初回の利用につなげることが必要である。また、どのような利用条件や料金であれば利用しやすいと感じるのかについても調査の必要性が示唆された。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

H. 引用文献

1. 長谷川望, 大野京子, 斎藤義弘, 浦島充佳, 衛藤義勝. 集団保育児の体調不良時の家庭での対応とその支援策について. 小児保健研究. 2007; 66(6): 809-814.
2. 東京都. 東京都病児・病後児保育事業実施要綱. 2013. Available from: http://www.fukushihoken.metro.tokyo.t.jp/kodomo/hoiku/byoji_byogoji/bybyou.files/byouji_jisshiyokou_H25.pdf
3. 新井香奈子, 安成智子, 太田千寿, 坂下玲子, 片田範子. 子どもが病気になった際の就労中の母親の対応とニーズ. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2012; 35(1): 27-36.